

事例 1

「うつくし」「らうたし」を手掛かりにして文章を読み味わう

1 ねらい

新学習指導要領の「国語総合」の指導事項「C 読むこと」の「(1) ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。」を指導の中心に取り上げる。「古典B」の言語活動例の「ア 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告すること。」を参考にして設定した、「現代語で『かわいい』を意味する五つの古語の用いられ方の違いを辞書で調べ、それぞれの言葉の意味に合った現代語の短文をグループで話し合っ作る」という言語活動を通して、文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうための言語能力を育成する。

この実践では、学習内容に対して納得をもって理解させることで、生徒が学ぶ楽しさを感じられるようにした。学習内容に対して納得をもって理解させるため、授業の中に、「調べ学習」、「調べた語句を用いての短文作り」という学習場面を設けた。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 随筆 『枕草子』－「うつくしきもの」－

(2) 単元の目標

- ①文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。
(関心・意欲・態度)
- ②文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。
(読む能力)
- ③国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解する。
(知識・理解)

(3) 取り入れる言語活動

現代語で「かわいい」を意味する五つの古語の用いられ方の違いを辞書で調べ、それぞれの言葉の意味に合った現代語の短文をグループで話し合っ作る。

(4) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
「うつくし」「らうたし」という古語に着目し、文章に描かれた情景・心情を表現に即して読み味わおうとしている。	「うつくし」「らうたし」という古語に着目し、文章に描かれた情景・心情を表現に即して読み味わっている。	「うつくし」「らうたし」という古語の語義や意味を理解している。

(5) 指導と評価の計画 (全4次)

次	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1	<p>● 読解のための準備をする</p> <p>(1) 「かわいい」と思うもの(動作を含む)について簡条書きし、書き出したものに共通する事柄をまとめる。 (ワークシート①(資料1))</p> <p>(2) 『枕草子』の成立、内容についてまとめる。</p> <p>(3) 類聚的章段についての特色をまとめる。</p>	<p>○なるべく具体的に書くよう指示する。</p> <p>○(2)、(3)は簡潔に行う。</p>	
2	<p>● 「うつくしきもの」本文を読解する</p> <p>(1) 「うつくしきもの」本文を音読する。</p> <p>(2) 本文を音読した後、現代語訳プリントを用いて本文の内容を読み取る。</p> <p>(3) 筆者が「うつくしきもの」として本文に取り上げているものの共通点をとらえる。</p>	<p>○単語の区切りに注意させる。</p> <p>○本文と現代語訳を対応させ、本文の内容を読み取らせる。</p> <p>○必要に応じて古語の意味を辞書で確認させる。</p> <p>○訳は同じであっても、本文に用いられている古語が異なることに気付かせる。</p> <p>○「何も何も、小さきものは、みなうつくし。」の一文に気付かせる。</p>	<p>読む能力 [行動の観察]</p>
3	<p>● 「うつくし」「らうたし」を含む五つの古語の語義を調べ、ワークシート②(資料2)にまとめる</p> <p>(1) 辞書で五つの古語について語義を調べる。(個別)</p> <p>(2) 調べた古語を用いて現代語で短文を作り、発表する。 (個別→グループ)</p> <p>(3) 現在用いられている「かわいい」という感覚に一番近い古語を選ぶ。</p>	<p>○机間指導を行いながら適宜助言する。</p> <p>○短文はまずは個別で作らせる。その後、グループ内で発表させる。グループで各自の短文の適否を検討し、グループとして全体に発表する短文を1文以上作らせる。</p> <p>○短文は現代語で作成するが、五つの古語はそのまま文中に取り入れさせる。</p>	<p>知識・理解 [行動の観察、ワークシート②] の記述の確認]</p>
4	<p>● 筆者がなぜ「うつくし」「らうたし」という古語を用いたのかを考える</p> <p>(1) 本文で、「をかしげなるちごの、～かいつきて寝たる」の箇所だけに「らうたし」が使われていたのはなぜかを考える。</p> <p>(2) ワークシート①(資料1)と「うつくしきもの」本文の内容を比較し、昔と現代における「かわいい」という感覚について気付いたこと話し合う。</p>		<p>読む能力 [ワークシート②]の記述の確認]</p> <p>関心・意欲・態度 [行動の観察、ワークシート①・ワークシート②・「授業後の生徒の感想」の記述の分析]</p>

3 授業の様子

【第1次】読解のための準備をする。

ここは単元の導入として1時間をかけて展開した。

ワークシート①（資料1）に「かわいい」と思うもの（動作を含む）について箇条書きさせる際は、なかなか書けない生徒もいたので、書けている生徒の中から2、3人を選んで発表させた。その後、もう一度書く時間をとったところ、ほとんどの生徒が書くことができた。

また、『枕草子』の成立や類聚的章段についての特色などについても簡単に整理した。

【第2次】「うつくしきもの」本文を読解する。

ここは1時間をかけて展開した。

現代語訳を対応させながら本文の内容を読み取る際には、必要に応じて古語の意味を辞書で確認させた。一通り内容を整理した後に、「本文で筆者が『うつくし』と感じているものの共通点が示されている一文はどこか。」と質問したところ、生徒は現代語訳を参考にして「何も何も、小さきものは、みなうつくし。」の箇所を挙げることができた。

【第3次】「うつくし」「らうたし」を含む五つの古語の語義を調べ、ワークシートにまとめる。

ここは約1時間をかけて展開した。

この單元では、「うつくし」「らうたし」という古語を切り口にして文章を読み味わうことを目指しているが、そのためには、これらの古語の用いられ方の微妙な違いを生徒に把握させる必要があった。そのため、第3次ではそれぞれの古語の語義を辞書で調べさせるところから授業に入った。辞書の種類によって見るべき箇所が異なるので、机間指導を行いながら生徒に適宜助言した。ワークシート②（資料2）の□には、現代語で「かわいい」という意味をもつ古語の中から、生徒が持っている古語辞典で調べることができると思われる古語を五つ取り上げた。個別に調べさせ、語義が載っていない辞書を使用している生徒には、辞書の例文を写すよう指示した。その後、語義を調べることができた生徒を指名してそれぞれの語義を板書させ、生徒の全員に確認させた。

次に、ワークシート②（資料2）の□の作業へと進んだ。ここでは、□で調べた古語の用いられ方の違いを意識させるために、古語をそのまま取り入れて現代語で短文を作るよう指示した。短文を作らせる際には、古語辞典だけではなく国語辞典の例文も参考にするようアドバイスした。最初は個別に作らせ、その後でグループになり、互いの例文の適否を確認させた。生徒は互いの短文を見て、感心したり自分の作ったものを手直ししたりしていた。その後、各グループごとに短文を発表させた。

最後に、ワークシート②（資料2）の□の問いについて考えさせた。□ではほとんどの生徒が「うつくし」を選んでいった。

【第4次】筆者がなぜ「うつくし」「らうたし」という古語を用いたのかを考える。

ここは約1時間をかけて展開した。

まず、「うつくし」はどのような場合に用いられているのかを質問したところ、生徒からは、「かわいいものを見たとき」や「小さなものを見たとき」などの答えが返ってきた。

次に、ワークシート②（資料2）の□の問いについて考えさせた。生徒からは、「見るだけではなく、赤ちゃんを自分で抱っこしてかわいいと感じたから。」や「抱っこした赤ちゃんが自分にしがみついて寝ている様子を見て、守ってあげたいと感じたから。」などという答えが返ってきた。

そこで、「うつくし」と「らうたし」はどのように使い分けられているのかを質問したところ、「何かを見て『かわいい』と感じたときには『うつくし』で、自分でそのものに触ったり何かをしたりして『小さくて弱いから守ってあげたい、大切に扱ってあげたい』と感じたときには『らうたし』が使われている。」という答えが返ってきた。

最後に、第1次に記入させたワークシート①（資料1）を生徒に返却し、本文の内容と自分が挙げた「かわいい」と思うものを比較させ、昔と現代における「かわいい」という感覚について気付いたことを話し合わせた。

【授業後の生徒の感想】

- ・ 昔の人の感覚でも共感できる部分は沢山あった。古語は難しいけれど学習していて楽しい。今回のように、現代と比べて考えることはいいことだと思った。
- ・ いつの時代でもかわいいものは同じなんだなと思いました。平安時代は今から見ると遠い昔なのに『うつくしもの』を読んで現代との共通点を見つけられたので、時代の距離が近づいたような気がしました。
- ・ 昔から今まで受け継がれている言葉を学ぶと昔の人とつながっている感じがする。
- ・ 清少納言の書いた別の文章も読んでみたい。
- ・ 昔使われていた「かわいい」という言葉はたくさんあり、使い方がそれぞれ違うのだと分かった。

「授業後の生徒の感想」からは、学習を通して「うつくし」「らうたし」という語句について納得をもって理解したことで、学習の楽しさを感じた生徒（波線）や、古典世界を身近なものとしてとらえ直した生徒（二重波線）がいたことが分かる。また、授業を通して古典作品への興味をもった生徒（破線）がいたことも分かる。

4 評価の例

読む能力の評価は主として第2次と第4次に行った。

このうち、第2次の評価は、第4次の学習活動の前提として、「生徒が文章の内容を大雑把に把握できているかどうか」を探るために行った。具体的には、「筆者が『うつくしきもの』として本文に取り上げているものの共通点をとらえる」学習場面において、「何も何も、小さきものはみなうつくし。」の一文を指摘できるかどうかを、観察することで評価した。「何も何も、小さきものはみなうつくし。」の一文を指摘できている生徒を「おおむね満足できる」状況（B）とした。現代語訳と本文を見比べさせることで、すべての生徒がこの一文に気付くことができた。

第4次の評価は、この単元における読む能力の主とする評価として行った。具体的には、授業後にワークシート②（資料2）の④の記述を確認することで評価した。「うつくし」と「らうたし」の違いについて把握したことを基にして、「をかしげなるちごの、～かいつきて寝たる」の箇所だけに「らうたし」が使われていた理由を説明できているものを「おおむね満足できる」状況（B）とした。ワークシート②記入例（資料2）は「おおむね満足できる」状況（B）と見なすことのできる例である。「努力を要する」状況（C）と判断した生徒には、ワークシート②の①、②で記述した内容を基にして「うつくし」「らうたし」の語句のイメージを考えさせたり、「をかしげなるちごの、～かいつきて寝たる」における「ちご」の様子を考えさせたりするなどの手立てを、個に応じて行った。

知識・理解の評価は主として第3次に行った。授業時の学習の様子を観察や、授業後にワークシート②（資料2）の①～③の記述を確認することで評価した。すべての古語の語義などが調べてあり、かつ、「うつくし」「らうたし」の語義に合った適切な短文が書けているものを「おおむね満足でき

る」状況（B）とした。ワークシート②記入例（資料2）はすべての古語の語義が調べてあることに加え、五つの古語すべてについて語義に合った適切な短文が書けていることから、事例実践校においては「おおむね満足できる」状況（B）の中でも優れたものであると判断し、「十分満足できる」状況（A）と見なした。「努力を要する」状況（C）と判断した生徒には、語句を調べるに当たって、その生徒の持っている辞書ではどこの項目を見ればよいのかを指導したり、別の生徒が持っている辞書を参考にさせたり、どのような短文にすればいいのかを同じグループの生徒と話し合わせたりするなどの手立てを、個に応じて行った。

関心・意欲・態度の評価は主として第4次に行った。昔と現代における「かわいい」という感覚について気付いたことを話し合わせた授業時の様子を観察したり、授業後にワークシート①（資料1）、ワークシート②（資料2）、「授業後の生徒の感想」の記述を分析したりすることで評価した。自身のワークシートと本文とを比較して気付いたことをまとめようとしているものを「おおむね満足できる」状況（B）とした。「努力を要する」状況（C）と判断した生徒には、現代の言葉と古語との共通点や相違点を考えさせたり、他の生徒の意見を参考にさせたりするなどの手立てを、個に応じて行った。

5 成果と課題

（1）成果

本事例の成果としては、次のようなことが挙げられる。

ア 本文（「うつくしきもの」）にある「うつくし」「らうたし」という語句について、生徒が納得をもって理解する場を作ることができたこと

今回の授業では、現代語訳を配布することにより、同じ訳でも本文に用いられている古語が違うということの発見につながった。その発見を手掛かりにして、辞書での調べ学習や古語を用いて短文を作る学習、さらには本文の読解へとつなげた。「授業後の生徒の感想」からは、生徒が、本文にある「うつくし」「らうたし」という語句について、納得をもって理解することができたことが分かる。

本実践では、辞書で調べる学習場面や古語を用いて短文を作る学習場面を設けたことで、生徒が納得をもって理解する場を作ることができたものと思われる。

イ 調べ学習の中で生徒同士による学び合いが行われていたこと

グループ学習の場面では、生徒は互いの短文を見て、感心したり自分の作ったものを手直ししたりしていた。グループ学習という、生徒同士の間で互いにアドバイスし合えるような学習形態を取り入れることにより、生徒同士が互いに意見を交わし、学び合う姿が見られた。

（2）課題

課題としては、次のようなことが挙げられる。

ア 調べ学習を行う際の、授業の進め方の工夫

今回の授業では、「調べるための道具」を生徒各自の古語辞典とし、授業に持参させた。生徒が持っている古語辞典は様々な出版社によるものであったために、グループ学習による学び合いは効果的なものとなった。

しかし、調べ学習においては、「調べるための道具」を、生徒が常に自前で用意できるとは限らない。「調べるための道具」を選択する幅を広げるためにも、学校図書館との連携や情報機器の活用などを視野に入れて、調べ学習を行う際の授業の進め方を工夫する必

要がある。

イ 古典に対する興味・関心を持続させる工夫

今回の授業を通して、生徒は、学習する内容が自分たちにとって身近なものと感じると、興味・関心を抱くようであることが分かった。古典作品に描かれている登場人物の考え方や心情を自分自身に引き付けて考えさせたり、古典の世界における習慣や年中行事などが、現在の自分の生活にもつながっていることを意識させたりするなどして、古典に対する生徒の興味・関心を持続させる工夫が必要である。

使用教科書

『改訂版高等学校標準古典』第一学習社

◇書き出したものに共通する事柄をまとめてみよう。

◇「かわらじり」「と風じもの」動作をきびくを簡潔書きで書き出してみ
 たい。(5行)書きしぽん
 (200)

() (組) (番氏名)

ワークシート① 記入例

◇書き出したものに共通する事柄をまとめてみよう。

・小こい
 ・動物

◇「かわらじり」「と風じもの」動作をきびくを簡潔書きで書き出してみ
 たい。(5行)書きしぽん
 (200)

() (組) (番氏名)

・犬の子どま
 猫
 ・うしまき
 ・ライオンの子どま
 ・白くまの子どま

『枕草子』『うつくしきもの』学習プリント

(組) (番氏名)

□ 次の①～⑥の古語(形容詞)は全て「かわいい」という意味を表す。どのよう
なときに用いられていたのか古語辞典で調べてみよう。

① 「いとほし」	
② 「かなし」	
③ 「らうたし」	
④ 「うつくし」	
⑤ 「をかし」	

□ ①～⑥の古語について、現代においてはどのように用いることがあ
るか。清少納言になったつもりで具体例を作ってみよう。

(例) 「うつくしきもの。テディーベアのストラップ。」など

① 「いとほし」	
② 「かなし」	
③ 「らうたし」	
④ 「うつくし」	
⑤ 「をかし」	

□ □で調べた古語の中で自分たちが使う「かわいい」という表現の用い方に
近い古語はどれか。
↓

□ 「本文」をかしげなるちこの、あからさまに抱きて遊ばしうつくしむほど
にかいつきて寝たるいとらうたし。」の箇所「らうたし」が用いられて
いるのはなぜか。考えてみよう。

『枕草子』の「うつくしきもの」学習プリント

□ 次の①～⑤の古語(形容詞)は全て「かわいい」という意味を表す。どのよう
なときに用いられていたのが古語辞典で調べてみよう。

① 「いとほし」	弱い者に対する同情や気持
② 「かなし」	人事に對しては情愛が痛切で胸がつかまる感じ、 自然に對しては深く心を打たれる感じを表す
③ 「らうたし」	「をかしげなる思ひあはらうまにいたす」(遊ばし) 「うつくしむほどにかいこもて寝たる、いとらうたし」 「いたむやうたいような気持ちにかうかす」(情)
④ 「うつくし」	「父母を見れば尊し妻子見ればめくし」 「うつくし」
⑤ 「をかし」	「小さいものをかわいいと見よ意」 「命つぎばかりとするは、前のせりの報い」 「このせりをかしかと」 「知的な感性を明るく郎らかな感情・情趣を表した語

(組) (番氏名)

1

□ ①～⑤の古語について、現代においてはそのように用いることができる
か。清少納言になつたつもりで具体例を作ってみよう。

(例) 「うつくしきもの。ティーンズのストラップ。」など

① 「いとほし」	捨てた猫をいとはしく思つ。
② 「かなし」	雨にも風にもまけず必死に成長するがはしませ
③ 「らうたし」	食べ物を一生懸命はこんでいる蟻らうたし。
④ 「うつくし」	「うつくしきもの。アリスさん並いくらみ。
⑤ 「をかし」	蝶を追いかけている子どもをかし。

□ で調べた古語の中で自分たちが使う「かわいい」という表現の用い方に
近い古語はどれか。
↓ 「うつくし」

□ 「本文」をかきげなる古語の、あからさまに抱きかかして遊ばせたりしてむね
に、かいつきて寝たるといふことだ。」「の箇所は「うつくし」が用いられて
いるのはなぜか。考えてみよう。

見えだりではなく、赤ちゃんを自分だけ抱きかかして
かわいいと感じたから。